

一、本條約ノ締結ニ付キ、我々ノ試ムルナラハ、右ハ交戦各國、特に
 本、英、法、蘇、露、中等國ニ加テ、他國ノ諸國トノ個別
 的及ヒ起點的關係ヲ規定スルモノトシ、國際聯合ソノ他聯合國ノ設
 置セシメ、國際機構トシテ關係ヲ規定スルモノトシテ、包含ムベシ、乍併、斯
 カル細目ニ就キ具體的の内容ヲ考慮スルハ、未タ可能ニモ非ズ又努力
 ノ浪費ナルベシ、因ツテ以下日本ヲ中心トシテ日本側ヨリ見テ、
 内容ニ付キ、本條約ニ試ムルコトトス

五、内容ノ想定ト之ニ對スル意見

(一) 領土の條件

(1) 指導原則

聯合國ハ平和條約ノ準據タルベキ太西洋憲章「ゴツダム」ニ宣
 言及「カイロ」ニ宣言ニ於テ領土ノ増大ヲ求メズ、「關係國民
 ノ自由ニ表明セラレタル希望ト一致セザル領土の変更ヲ見ル
 ヲ欲セス」(以上太西洋憲章)「同盟國ハ領土擴張ノ何等ノ
 念ヲモ有スルモノニ非ス」(「カイロ」宣言)トナシ一應帝
 國主義的領土獲得ヲ否認シ合理的道義的領土問題ノ解決ヲ標
 榜シ居レリ

我方トシテモ之ニ異議ナカルベク寧ロ個々ノ場合ニ之ヲ採用
 シ有利ナル解決ニ努ムベキナリ

(2) 問題ノ所在

「ゴツダム」宣言及「カイロ」宣言ニ明示セラレアル條件ハ

外
務
省

(二) 軍事的條件

彼等ノ窮局ノ目的ハ平和的の日本ノ建設ニシテ其ノ反面ハ日本ノ非軍國主義化、軍事能力ノ徹底的破壊トナルヘク此ノ意味ニ於テ我方ニ對シ軍事的ニ課セラルヘキ條件ハ過酷ト云ハンヨリハ寧ロ問題外ト云フヘキモノナルヘシ

然シテ軍事的ニハ終戰以來聯合國側ノ最モ意ヲ注キアル所ニシテ平和條約締結ニ際シテハ唯其ノ既成事實ヲ改メテ條文化スル如キモノナルヘシ

尙將來ニ亘リテ日本ヲ完全ニ武装化セントスル規定ヲ設クヘキ意向存スルナランモ我方ヲ國際法上ノ永世中立國ノ如キ地位ニ立タシタルカ如キ場合ハ暫ク措キ少クトモ獨立國トシテ存續スル以上自己防衛ノ最少限ノ軍備ノ必要ハ論ヲ俟タス當然之ヲ要求シ得ヘク新ナル基盤ニ立ツ防禦的平和的軍備ヲ許容セラルヘク功説スルノ要アリ

外務省

軍事的條件ニ關聯シ軍需産業、航空機、海運等交通關係ノ問題存スルモ別項ニ讓ル

外務省

(三) 經濟的條件

(1) 再軍備ヲ可能ナラシムル如キ産業ノ制限。
 何ガ再軍備ヲ可能ナラシムル産業ナルカニ付問題存ス、航空機工業、自動車工業、造船業、工作機械工業、鐵鋼業、「アルミ」工業、化學工業、海運業等ハ問題トナル産業ナリ。右ノ中航空機工業ハソノ維持セシムルニ非ルヤ。
 我方ノ希望ハ「國際聯合」代表者ノ嚴重ナル監督ヲ容認シツノ代リニ此レ等産業ノ維持發展ヲ自由ナラシムルコトヲ要求スベシ、(聯合國ノ目的ハ再軍備ノ防止ニアリ、且ツ産業ニシテ軍備ニ無關係ナルモノナシ、聯合國ハ監督權ヲ得ルコトニ依リコノ複雑ナル問題ヲ解決スベキナリ、我方ヨリ言ヘバ監督ヲ主權ノ毀損ナリトスル考ヘハ世界ノ大勢ニ合致セズ) 産業施設徹廢ノ寬大化ヲ求ムルヨリハ假ニ一時ハ全面的ニ除去セラレルモノノ再建ト發展トノ自由ヲ求ムベキナリ。但シ

外務省

日本民族ノ奴隸化乃至日本國民ノ滅亡ヲ來シ或ヒハ平和的且生産的生活ヲ不可能ナラシムル如キ民生産業ノ剝奪ハ「ポツダム」宣言ニ於テ否定セラル。

(2) 賠償ノ取立

再軍備ヲ可能ナラシムル産業設備、及び最少限ノ民生經濟維持ト「公正ナル實物賠償」ノ取立ヲ可能ナラシムルニ「賠償」ノ取立ハ「最少限ノ民生」ノ程度ヲ高カラシムル如ク努力カスルヲ要ス「日本ノ侵略セル國家ノ民生ヨリモ高キ民生ヲ許サズ」ト言フハ、我方ノ受諾セル「ポツダム」宣言ニモツノ他ノ準據スベキ文書ニモ規定スル處無シ之ヲ正義ナリトスルハ機械的正義觀ナルベク、有機的且ツ歴史的正義觀ニ非ズ平和條約ノ目的トスル平和ノ恒久的維持ヲ達成スル所以ニモ非サルヘシ。
 長期ニ亘ル繼續的實物賠償ノ取立テハ之ヲ短期ナラシムル如

外務省

ク努力スルハ勿論ナルモノノ世界ノ經濟ノ均衡的發展ニ資スル所以ナリヤ否ヤハ十分ニ檢討スルヲ要ス、科學的ナル否定的論文ヲ準備スルヲ要スベシ。

(3) 原料ノ入手ト世界貿易ヘノ參加

「ボツダム」宣言ノ規定スル處ニシテ問題無キ筈ナルモ第一ニ繼續的實物賠償ノ爲ノ原料入手ニ制限アリテ我國ノ貧窮化ヲ齎ラシメサルコト、第二ニ原料ノ入手ハ勿論世界貿易ヘノ參加モ平和條約締結ト共ニ許サルルガ如ク努力スルヲ要ス、原料ノ入手ト通商トハ大西洋憲章ニ明記スルガ如ク國家ノ經濟的繁榮ヲ齎スベキモノニシテ、我方トシテハ之ニ加ヘ實物賠償用ノ原料ヲ入手スベキモノナリ。繼續的實物賠償ノ早期打切りハ此ノ二條件ノ満足セラレル限り必シモ之レニ執着スベキニ非ズ、蓋シ市場確保ノ實物宣傳トシテ繼續的實物賠償程安全ナルモノハ存セサルヲ以テナリ（但シ右ハ良心的商

外務省

品製作ヲ前提トス

(4) 交通ノ制限

航空業ノ運営ハ之ヲ認メズ、海運業ノ運営ハ之ヲ制限スベシ航空業ハ嚴重ナル監督ノ下ニ自主的ニ運営スルモノヲモ認メサスベク努力スベキナリ。「ボツダム」宣言ニモ又他ノ文書ニモ之ヲ一國ニ對シ否定スル文言ナク恐ラクハ國際正義ノ原則ニモ反スベシ、海運業ニ就イテハ寧ロ積極的ニ各文書ノ高唱スル處ニシテ、「ボツダム」宣言ニ規定ナシ。一時船舶ノ全面的徹廢ヲ行ハルルトモ海運ノ再建發達ノ自由ニ主點ヲ置キ之ヲ主張スベキナリ。

外務省